
桜、ギター、卒業

彼方 ヒロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜、ギター、卒業

【Nコード】

N7685Z

【作者名】

彼方 ヒロ

【あらすじ】

仲間との別れを思うと、どうしても胸が締め付けられてしまう。誰もが卒業する際に味わうそんな切なさを、心を空っぽにし何も考えずに書き綴ってみました。構成やテーマに問題があるかもしれませんが、もし気づいたことがあれば、批評・感想を書いていただけたら幸いです。

穂乃花はじつと桜の木を見つめながら、静まり返った庭に、どこか途切れがちなその小さな歌声を響かせていた。肌をなでるその優しい風が栗色の髪を浮き上がらせ、ふと一枚の花びらが舞い落ちていき、そつと彼女の頬を撫でていった。そうして穂乃花は幹にもたれかかり、同時に、ゆっくりと目を閉じた。

頭上で葉擦れの音が繰り返され、母屋の方から歩いてくる誰かの足音に、彼女は気付いた。足音はすぐ間近で途絶え、その誰かが側に立ったのがわかった。穂乃花は目を閉じたままそつと耳を澄ませていたが、傍らで、波を打つようにギターの音色が流れ始めたのを認識した。

アコースティックの旋律が春の風に乗って、螺旋を描いて舞っていく。彼女は自分の歌声をその旋律に乗せながら、そうしてそつと瞼を開いた。それから顔を上げて横へと振り向くと、肩が触れ合うような、本当に近い距離に姉の穂月の姿があった。彼女はロングストレートの髪をなびかせながら、唇の端で煙草を啜え、じつと空を見上げて佇んでいた。

ギターを見下ろすこともせず、ただ指だけを動かしてその確かな音色を紡いでいく。思春期だとすぐにわかるような、どこか幼げな顔つきをしているが、その眼差しは大人そのものようでもあり、揺らめく紫煙が桜の枝に巻きついて、どこか彼女を慕うようにその細い矮躯に吸い付いていく。

穂乃花は姉の視線の先を追い、彼女が何を見ているのかようやく理解した。

「さつきから、あの雲だけ動いていないね」

それは本当に無機質な声で、穂乃花はギターの音色でさえ、どこか機械的であるように感じた。

「あの雲がどこかへ消えてくれたのなら、私の心も晴れ晴れとして

ほっとするのにな」

「あの……それよりもさ、卒業おめでとう姉さん」

その途端、狂おしいほどに熱情的なメロディーが私達の周囲を切り裂いた。ピックを強く弦へ触れさせ、髪を振り乱し、荒々しい即興演奏へと入っていった。

「別段、学校生活には愛着らしきものは感じていなかったが、それでも、あいつらと別れることになるんだと思った瞬間、何故か無性に腹立たしくなってるね」

「なんだか理不尽な怒り方だね……姉さんらしいと言えば、確かにそうなんだけど」

するとそこで、穂月の演奏が突然荒々しくなり、もはや音楽と呼べるような代物ではなくなってしまうた。雑音のようにも聞こえてしまうが、それでもそれは、穂月の心の内をはっきりと感じさせてくれる魂のこもった演奏だった。

「全く腹立たしいことだ。今の私には、自分自身が堪らなく滑稽に思えて仕方がない」

徐々にギターの音色がどこか落ち着いて静かになり、彼女は眉を歪めて震えながらも、「本当に馬鹿らしいことだよ」と言った。それに対して穂乃花は、「馬鹿らしくなんかないよ」とただ言葉を返した。そうして穂乃花はそっとつぶやいた。

姉さんにも、大切な友達ができたんだね。絶対に大事にしてあげてね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7685z/>

桜、ギター、卒業

2011年12月25日01時46分発行